

千里国際学園 中等部・高等部

シリーズ「世界は千里でひとつになる The World Comes Together in Senri」 第17回

千里国際学園の授業：国語科と日本語科

国語科 / 福島 浩介

千里国際学園には日本語という言語を教育する教科として、日本語科（JSL=Japanese as a Second Language 第二言語としての日本語の教育を行う）と国語科（JNL=Japanese as a Native Language 第一言語としての日本語の教育を行う）の二つがあります。日本語科には専任3名・非常勤3名、国語科には専任5名・非常勤3名の教員がおります。このように科としては二つに分かれています。同じ研究室にデスクを並べているので緊密な連携が行われています。基本的には、日本語科がOsaka International School（以下OIS）の児童・生徒の授業を、国語科が千里国際学園中等部・高等部（以下SIS）の生徒の授業を行います。習熟度に応じて、SISの生徒が日本語の授業を、OISの生徒が国語の授業を履修することも日常的に行われています。

生徒それぞれに合った授業の履修

本校では多くの授業で、それぞれの生徒の背景・条件に合った授業を履修できるように、習熟度別に授業が構成されています。中等部の日本語・国語に関しては、OISの日本語Foundation、Standard、AdvancedそしてSISの基礎国語・国語というふうになっています。生徒の皆さんは、入学・編入学時のオリエンテーションにおいて日本語のプレイメントテストを受け、どのクラスを履修するかを決めます。基本的には、国語科が「このクラスが合っているのではないか」という示唆をするわけですが、それぞれの生徒の意向も参考にします。

中等部では、日本語の授業と基礎国語・国語の授業が同じ時間帯に行われていますので、学期ごとにクラスの移動が可能になっています。高等部では、多くの選択可能な授業がありますので、学期ごとに履修を変更することが可能で、これによって各自の習熟度やニーズに対応します。（イメージとしては大学の授業の選択と同じようなものです。今年度からは、履修登録期間内に学内のコンピュータを使って各自が分かりやすく登録でき、また教科書の注文もできるようになっています。）

このように、その時点時点で各自にあった授業ができるように、また、各生徒の成長に応じて履修を変更しやすいように、本校の時間割のシステムは出来上がっています。

因みに、本校の開講科目一覧は <http://www.senri.ed.jp/departments/curriculum2.htm> で、各教科の説明は <http://www.senri.ed.jp/departments/> でご覧になれます。

日本語・基礎国語・国語

さて、前述のプレイメントテストで日本語の習熟度を測り、それぞれの生徒にあった授業を履修してもらうように時間割を組むわけですが、ここでは中等部の生徒に対して、日本語科と国語科が提供している授業の内容を簡単に説明したいと思います。

まずは日本語の授業。日本語以外の言語が第一言語であるとか、また学校で日本語を学ぶ機会が少なかったなどという理由で、「国語」の授業に慣れていない生徒諸君が、日本語科が開講している授業を履修します。ここでの目的は、「日本語という言語を学ぶことに慣れる」です。日本語のクラスを履修した生徒は、ここでの一～三学期間ほどの学習を経て、基礎国語のクラスへと移動します。

次に基礎国語のクラスです。このクラスは、ほかの学校にはあまり無いクラスではないかと思えます。現在、「基礎国語」というクラスは、中等部一・二年生のみ対象に開講ですが、中等部三年生以上は各生徒の授業選択の自由度があがってくるために、「日本語」と「国語」の開講授業の中で、選択の方法によって習熟度の違いに対応しています。ここでの目的は、「国語の授業での勉強の仕方に慣れる」です。教科書は、国語の授業用のもの、また副教材も同じものを使用します。本校では、中等部の国語のクラスも大体20人前後の少人数で開講していますが、基礎国語は多くて12～3人、少ない場合は2～3人という、ごくごく少人数で行っています。ちなみに2007年度は春学期12人、秋学期5人、冬学期3人という具合でした。授業は、国語という科目の勉強の仕方に慣れること、国語の基礎的な事項をしっかり身につけ